

平成二十九年 度

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は **1** のみで、**2 ページ**にわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**五十分**で、終わりは**午後三時五十分**です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められたところに記入しなさい。

共立女子第二中学校

問題は次のページから始まります。

1 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

学校の生徒の中には、試験では一〇〇点満点をとれば万々歳ばんばんざい、という人がたくさんいる。一〇〇点がとれる人が一番すぐくて、七〇点とか六〇点ぐらいではダメだと考える。しかし、それは旧式な考えだ。

日本では一九世紀からつい最近まで、満点のほうが一〇〇点や六〇点よりいいと、学校も世の中も考えていた。その結果、いつしか社会は活力を失ってしまった。満点至上主義おちいに陥おちいったことで、本当に優れたすぐた、ものを考える力、判断し、理解する力を持った人がどんどん減ってしまった。

今では大学に行く人の数は昔の何十倍、ひよっとすると百倍を超すこかもしれない。毎年たくさんの人が大学生になるのはいいけれども、一方で、ただ試験の点数さえ良ければ大学に合格できてしまうという現状になってしまっている。みなさん、大学に受かるのが優秀ゆうしゅうな人間かんじやうなんだと勘違いしている人もいるかもしれないが、考えを改める必要がある。

いったい、「満点をとる」とはどういうことだろう？——私に言わせれば、それは「頭が機械的に優秀である」ということだ。

丸暗記をしたり、わけもわからず全部覚えてしまっていると、たいていの場合満点になりやすい。それに対し、多少なりとも自分の頭を働かせて理解しようとする頭は、なかなか一〇〇点満点をとることができない。よくても九〇点、だいたい七〇点から八〇点ぐらいのところである。そ

ういう人たちは、有名な大学や難関の高等学校に入れなかったりする。しかし、その人たちが悪いわけじゃない。今までの社会が、考える頭よりも機械的な知識をありがたがってきたからにすぎない。

もちろん、一〇〇点をとっても構わない。点をとること自体はけっして悪いことではない。しかしながら、①一〇〇点をとったからといって得意になったり、いばつたりなんかするのはトンデモないことだ。逆に、五〇点六〇点だからといって恥はじたりする必要もない。本来は五〇点六〇点でも充分じゅうぶんいい成績なんだから。一〇〇点満点の答案の作成なんてコンピュータきおくりよくに任せておけばいい。人間よりコンピュータのほうが、記憶力はずっとすぐれている。それに引きかえ、七五点の答案を書くということは、機械にはできない作業である。

私が教師をしていた時、どうもこのクラスにはカンニングをする者がいるらしい、とにらんだことがあった。そこで、満点の答案は外し、点をいくら引かれているものの中から、まったく同じ箇所かしょで間違まちがっている答案を探し出すことにした。まるつきり同じ間違いをする答案というのは元来、存在しないはず。同じだったらどちらかが他人の解答を丸写ししたのだ。

残念ながら、満点の答案ではそういう証明はできない。満点の答案の中では誰だれもが同じことを書くからだ。ところが、まったく同じ箇所かしょで二五点引かれるなんていうことは、人間としてはまずあり得ない。その二五点に、その人だけの個性や考えがかくれて存在する。その人なりの生き方や感じ方、その人しか持ちえないいろんなものが入り混じって減点されることに

なる。だから、まったく同じところで、同じように点を失うことはまずあり得ない。もしあるとしたら、それこそ必ずカンニング。実際、その答案の主を呼び出してとつちめると、スミマセンって言う。

点を失うってこと自体はあんまり良くないことだ。その反面、満点を喜ぶのは幼稚である。もしも、一〇〇点満点をとれないからといって、頭が悪い、と思ひ込んでいるのなら、いまずぐにその考えを改めたほうがいい。満点をめざして努力するのは結構だが、満点であること自体は大したことではない。

これから社会で立派な仕事をしていくには、そういう一九世紀から引きずってきた古くさい考えを捨て去る必要がある。丸覚えした知識を試験の時に書き連ね、その点数がいいと優秀であると喜ぶのは、もはや単純で、遅れた考え方なのである。

これからの時代、②「これまでとは少し違った勉強をする必要がある。」

これまで考えられてきた勉強というものは、大体において「知識」、ないし情報を取り込むことであった。小学校からひたすらに知識を頭に入れ、試験の時はその知識を使って答案を書いて、点をとるのである。この知識というものは、大変有用であると考えられている。したがって知識をたくさん持つことは、その人間の価値を高めると思われるのである。しかし、満点の答案を書く①として人たちが持っているような知識がたくさんあっても、それは本当の人間の力ではない。

(外山滋比古『知ること、考えること』〜何のために「学ぶ」のか〜による)

【問題一】①「一〇〇点をとったからといって得意になったり、いばつたりなんかするのはトンデモないことだ」とありますが、それはなぜですか。

本文中の言葉を使って、四十字以上、五十字以内で説明しなさい。  
なお、「、」「や」「。」もそれぞれ字数に数えます。

【問題二】②「これまでとは少し違った勉強をする必要がある。」とありますが、あなたが中学校に入学したら、具体的にどのような勉強をしていく必要があると考えますか。

本文の内容をふまえて書きなさい。

なお、次の「**きまり**」にしたがい、三百字以上、四百字以内で書きなさい。

【**きまり**】

- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- 、や。や「なども、それぞれ字数に数えます。